

平成30年度 第1回 平塚市美術館協議会 会議録

開催日時 平成30年11月 7日(水) 14時00分～15時35分  
開催場所 平塚市美術館 研修室  
出席者 委員 水沢勉、吉村維元、瀬高真一郎、林孝之、内田尚子、岩崎由紀子、  
青木智明  
事務局 高橋社会教育部長、草薙館長、平井副館長、土方学芸担当長、勝山学芸員、  
江口学芸員、家田学芸員、所管理担当長

傍聴者 なし

会議の概要

- 1 開会
- 2 社会教育部長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 職員紹介
- 5 議題

(1)平成30年度事業について

これまでの事業報告(事務局から説明)

作品 展覧会 教育普及 その他の事業 施設利用者等の統計

今後の事業予定(事務局から説明)

展覧会 教育普及 その他の事業

(2)その他

- 6 閉会

委員の交代の報告

事務局より、学校教育関係者のうち中学校長会選出の栗木雄剛委員について、選出団体の人事異動等に伴い、新たに林孝之委員(平塚市立金旭中学校長)が就任したことを報告。

社会教育部長挨拶

委員会開催にあたり、社会教育部長から挨拶があった。

議題及び質疑

(1)平成30年度事業について これまでの事業報告

上期の展覧会事業、教育普及事業について、内容・会期・関連事業等を事務局から説明。

その他の事業、施設利用者等の統計、施設の管理や防災訓練の内容等を事務局から説明。

(質疑)

展覧会事業について

委員 展覧会ごとの目標動員数はどのように決めるのか。

事務局 年間観覧者数は教育委員会や市の計画で10万名を目標としているが、展覧会ごとの観覧者数は経験値による。

委員 観覧者数のなかで事務局からサラッと10万名と説明されたが、漠然としていて、それが多いのか少ないのかよくわからなかった。説明でも展覧会ごとの結果(観覧者数)は出されたが、目標値との対比で、どれくらいの観覧者があれば成功なのかということを示すと「見える化」という点でよいのかと思う。とは言え、芸術は数字の多寡で推し量るべきではないという思いもある。たくさんの方に見ていただくことも大事だが、1名でも心に残るものがあれば、成功というか意味があることになるのではないか。

事務局 自分が平塚市美術館に来た頃は、年間の観覧者が3万名程度だった。平塚市の人口が26万名とするならば、3万名は人口の10分の1強の市民が訪れていることになる。地方の美術館なので、3万名でも充分と言えるが、その程度の人数だとあまりにも少なく、美術館に誰もいないような状態である。それから少しずつ観覧者が増えていき、年間10万名を超えるくらいになった。10万名位が平塚市の、或いはこの美術館のキャパシティ、スタッフの人数等からするとちょうどいいのではないかと考えている。確かに委員の言われているとおりで、数字だけで評価されるべきものではない。来館者の満足度を上げていくことが課題なのだろうと認識している。

#### 教育普及事業について

委員 スクールプログラムについて、児童・生徒が対象であり、全ての市内小中学校で実施してもらいたいと思うが、実績をみると全てということでもないようだ。これは市内小中学校全校に周知しているのか。周知しているならば、いつ頃なのか。

事務局 年度当初に市内小中学校の全てに資料を送付している。そのうち、希望する学校から相談や申し込みがあれば実施している。市立美術館であるので、全ての市立小中学校と連携して実施していきたいが、予算やスケジュールの関係で学校側も希望する校外学習全てを実施できるわけではないという事情があるようだ。

委員 「対話による美術鑑賞」を中学校でも実施できたことは、中学校側からすると大きな一歩を踏み出せたと思っている。学校現場と美術館がいい関係を作り出せたのではないか。一方で、アートカードの活用について、自分もカード作成に係わったのだが、現場では教員の方で今一つ利用の仕方がわからないというのがある。アートカードを用いて、中学区内の小学校に出前授業を行ってみると、子どもたちの反応はよく、(アートカードを)学校で活用していくことで、子どもたちの豊かな心を育み、美術への興味や美術館に来館してもらおうきっかけになるのではないか。

事務局 教員向けプログラムでも、アートカードの活用について触れており、統計はないが、アートカードを知っている、使ったことがある、との教員の声も聞いているし、子どもたちにも認知されていると思うが、御指摘を受け、活用方法の周知については工夫してみたい。

委員 スクールプログラムの実績をみると高等学校の実績が少ないと感じる。美術館にはさまざまな要素があり、学校ばかりに特化した対応というのは施設の的にも人的にも難しいとは思う。ただ、先ほどの説明では市立美術館であるので、市立小中学校と連携との話だったが、県立高等学校の私たちの気持ちとしては、県立美術館とか県立近代美術館へはアクセスの問題もあり、

やはり、学校としては、地域にある美術館を積極的に利用したいという思いがある。先ほど、少し聞き取れなかったが、スクールプログラムの案内は市立小中学校だけに送っているのか。

事務局 スクールプログラムについてのお知らせは、市内にある高等学校にも送付している。スクールプログラムについて、希望があれば、学校側でどんなことができるのか教えていただければと思う。こちら要望に合わせて内容を組み替える等して対応できるので、是非、御相談を。

委員 情報をキャッチし切れていなかったかも知れないので、確認したい。先日、美術教諭と話した際、美術館を何とか活用したいとの話があった。美術館としてどんな対応ができるかとか、どのくらい時間をかけるのか等を伝えていただけると非常にありがたい。今、高校生にとっての課題は、本物を見せることの大切さであると考えている。小学生でも中学生でも高校生でも美術、工芸、書道、音楽でも、本物を見せることで生涯に渡って、美術、芸術に触れる気持ちの芽を育てることは、とても重要な教育の課題だと思う。豊かな心を育むために芸術、本物に触れることは、大切な教育ソフトだと思っている。高等学校としても、平塚に限らずそれぞれの地域の美術館と連携して、子どもたちに生涯に渡る教育に資していきたいと考えている。

事務局 確かに、市立でもあるし、小中学校を中心に事業を考えてきていたが、委員の御発言は承った。しかし、高校生くらいになるとなかなか美術館に来なくなるということもある。美術館からは、展覧会ごとにポスターやチラシも送っている。その他の取り組みとして、毎週土曜日は高校生を無料としているので、是非鑑賞に訪れていただきたいが、色々な情報の中で埋もれているかも知れないので、周知については工夫していきたい。

会長 自分の経験に照らすとなんとなくわかると思うが、高校生くらいとなれば一人で展覧会を見に行く。もう団体では見にいかない。興味があれば一人でもどんどん行ってしまふ。自分の好みのものを見るというか、そういう選択眼を美術好きの子は15～6歳でもう持っているのだから、それまでの時間が大事。金沢21世紀美術館では10歳の子どもがターゲットで、10歳の子どもは必ず21世紀美術館を見ると。そこで現代美術はどういう面白さがあると、教育普及もものすごく手厚くしておく。それがリピーターとなって、面白いから、おじいちゃんおばあちゃんと来ようかと、世代を超えて現代美術を見るという好循環が生まれている。そういう成功ストーリーがある。どこでリピーターを形成するか、そこに団体で来てもらう。高校生となれば、大人の判断である。自分の好き嫌いははっきりしているから、これがいいから行こう、と言っても行ってはくれない。それは先生の価値観ですよ、と。芸術には特化性があるので、その前にいいものを、本物を切磋させるのは教育普及のフォーカスする部分だろう。高校生に対しては、情報提供し、来やすくするとか配慮してあげればいいのか。美術部にフォーカスするとか、工夫はできるのではないかな。

委員 先ほど申し上げたのは、そこはかたない危機感で、将来、自ら足を運んでくれる人、豊かな心を持った人を私たちは育てていることは出来ているのかな、というのが発言の根底にある。

その他の事業について

委員 施設利用者等の各種統計だが、今年度のものに限らず直近5年くらいの推移がわかる資料をつけてほしい。事務局の方はわかっているのかも知れないが、個人的な印象として年々、展覧会も充実し、展覧会に関連するワークショップの開催が充実してきていると思うが、数年分つけてもらえれば、それが検証でき、一方では何故利用が伸びないか等の状況が把握できるので

はないか。

事務局 次回（平成31年3月開催予定）の資料から、過去の推移がわかるような資料をつけることにしたい。口頭での報告となるが、展覧会の観覧者数についてはここ数年10万名を超えてきている。貸館施設の利用はほぼ毎年同じ傾向にあるが、アトリエの利用が少ないというのが課題となっている。市民アートギャラリーの利用について、毎回抽選になるほどの利用希望があり、空きがない状況だが、入場者数については主催者からの報告であるが、その時期の展覧会開催状況に影響される部分はある。ミュージアムホールは展覧会開催中に展覧会関連映像を流しているため、それ以外の時期の貸出となっている。

委員 アトリエ利用が課題ということだったが、アトリエでは創作活動ができる環境にあるのか。また、各種制作で使用する機材等はあるのか。以前、町田の版画美術館に行った際、平日なのにアトリエが賑やかで、銅版画の作成に使用するプレス機や道具もあり、充実していたようだ。

事務局 アトリエはA室、B室とあり、A室は多目的に使用いただける部屋となっている。B室は作業台や機材等が設置してあり、各種制作を行うことができる。プレス機もある。ただし、プレス機の操作には専門の知識も必要であり、一般の方への貸出はしていない。銅版画のワークショップの際に使用している状況である。

委員 駐車場が有料となったが、美術館利用では1時間無料というのは時間が短いと感じるが。

事務局 駐車場管理は受益者負担の考え方のもと、図書館、博物館と市庁舎と合わせて民間委託となった。このため、美術館の裁量で無料（減免）時間を変更させることはできない。美術館としても、来館者から同様の要望があることは認識しており、所管課には伝えている。

委員 個人的には有料に賛成である。今年から有料となって以前よりも駐めやすくなったと感じている。有料化したことで、少なからずあった目的外駐車や長時間駐車が減らせた効果ではないのか。因みに県立近代美術館は有料なのか教えてほしい。

会長 県立近代美術館は有料である。美術館利用者は1時間無料であるが、場所柄もあり、夏場は海に行く人が朝から駐車されてしまい苦慮している。1日駐車すると6,000円となるが、それでも海に行く方の駐車場の利用はある。有料となったのはいつからか。

事務局 今年の1月からである。

会長 最近では、お金を払うこと自体がクオリティを保証するとの考え方が主流となりつつあるのではないかと。無料がすべて良いわけではない。ただ、今年から有料化したということもあるし、運営会社との契約もあるだろうが、美術館利用を考えたときには猶予というか、弾力的運用ができるのか研究してもらえればいいのではないかと。

平成30年度の今後の事業予定について

下半期の展覧会事業の内容・会期・関連事業等、教育普及事業の主なワークショップの内容等を事務局から説明。

その他の事業の内容等を事務局から説明。

（質疑）

展覧会事業について

委員 特集展、所蔵品展は、その切り口やカテゴリーが多彩で楽しく、よいと感じているので、

楽しみにしている。また、冬の所蔵品展では、「絵を見ておしゃべり」とある。私は専門家ではないが、美術鑑賞は静かに見るものだと思っていた。美術館でおしゃべりしても大丈夫なのか。

事務局 一般的には静かに絵を見たいという方が多い。おしゃべりと言っても、美術鑑賞なので他の方の迷惑とならない程度が許容される範囲があり、積極的におしゃべりしてくれということではないと。でも、黙って見るよりは、印象や感想などを一緒に来た方とお話しながら御覧になられた方が、より印象が深まるし、コミュニケーションになるのではないかと。今回の企画は、冬場の閑散期、あまりお客さんが美術館に来ない時期なので、他の観覧者の迷惑になりにくいと考え実施する。小倉遊亀展のような展覧会でやろうとしても、静かにゆっくり見たい方が多いので、苦情になりかねない。

実際には、6つ目の部屋でコミュニケーションできる仕掛けを作る計画である。

委員 美術館でおしゃべりしてもよいというのが、美術館の敷居を下げることに繋がるので、良いと思った。

会長 町田市版画美術館が先駆けとなり、観覧しながらみんなで自由に話そう、と促す動きが始まっており、既に5年位経って経験値が出ている。これを先行事例として葉山でも話をする日を設定している。話すことでより心に作用するので、広めていきたいと考えている。エチケットを学ぶ機会でもあるし、どう応用できるのか検討する価値はある。ただし、美術館側の、とりわけ監視、受付、管理部門の負担が増えてしまうが、それでもエチケット形成、共通意識を作ることで、上品に話すという着地点を見いだせるのではないかと。

委員 昔、私たちが学んできた鑑賞授業は、表現するより鑑賞に重点が置かれ、つまらなかったという印象があった。しかし、大人になると鑑賞の機会、経験の方が断然多い。おしゃべりも含め、いろいろな鑑賞のあり方があってもよいのではないかと。ところで、街歩きをされていて気づいたのだが、90年代初頭に屋外彫刻展があり、当時設置した屋外彫刻が市内のいろいろな場所に点在している。それをもう一度、何故そこに彫刻作品があるのか、市民が存在を忘れているような気がしている。それをもう一度市民の方に見直してもらえるような、企画があってもいいかな、楽しいかなと思うが。また、それらの屋外彫刻は汚れたり、傷んだりもしている。教育会館の前に設置されたものも破損し、修復したと聞いている。そんな屋外彫刻の現状をもう少し市民に知ってもらい、見直してもらうために、屋外彫刻を活用できないか。

事務局 市内各所にある屋外彫刻は、美術館とは別の部局で設置しており、その後それぞれの所管に移管されているので、美術館では関与しにくい。美術館の敷地内に設置しているものは、点検等を行っているが、それぞれの所管課も予算の縮減や屋外彫刻の保全等に関する情報がないため、設置したままの状態のものが多く、酸性雨や排気ガス等の影響で傷んでいるものも多いと推察する。これは平塚市だけの問題でなく、全国でも同様の状況だと思う。市民を巻き込んだ保全、活用活動が必要だが、美術館の役割として芸術品の価値を見直すか機会を作っていくことができるのかと思う。

委員 美術館にある屋外彫刻のメンテナンスはどのようなもので、頻度はどの程度なのか。

事務局 美術館にある屋外彫刻のメンテナンスは毎年11月頃に行っている。動く彫刻(ホセ・デ・リベラ「コンストラクション#115」)は止めて行い、それ以外のものは実習生が中心となり、水洗いしている。

( 2 ) その他

なし。

閉会

館長より閉会を告げた。

次回は平成 3 1 年 3 月に開催予定。

以 上